

宮崎県食品ロス削減対策協議会

第4回議事録

宮崎県環境森林部循環社会推進課

議事1 フードバンクイベントの実施報告について

(事務局説明)

フードバンク活動の報告をさせていただきます。

まず初めに、実施経緯について少し振り返らせていただきたいと思います。

本協議会におきましては、委員の皆様から、それぞれのお立場における食品ロスの現状や取組等について情報共有いただくとともに、その発生抑制や、発生した食品ロスの循環対策について検討を進めていただいております。

また、県が行っております啓発事業である「みやざき食べきり宣言プロジェクト」につきましても、皆様から御意見等をいただきながらイベント等を行いまして、少しずつこの「食品ロス」という言葉を、県民の皆様にも知っていただけるようになったのではないかと思っております。

こうした中で、今年度はさらに一步前に進みまして、委員の皆様や県民の皆様との「協働」ということで、食品ロスになる前の食品の活用の取組として、今回「フードバンク」を行うこととなりました。

そもそも、このフードバンクは何かといいますと、包装の印字ミスや賞味期限が近い等、食品の品質には問題ないものの、通常の販売が困難な食品等を、NPO等が食品メーカーから引き取って、福祉施設等へ無償提供するボランティア活動となっております。

今回は、この取組をイベント的に行うということで、企業や個人の方からの食品受領を県の方で行いまして、寄贈いただいた食品を、二見委員が所属されております「みやざき子ども未来ネットワーク」様を通じて、県内の子ども食堂に無償提供するかたちで実施させていただきました。

イベントは、11月18日(日)に「Karada Good Miyazaki フェスタ 2018」という食関係のイベントが開かれたのですが、その会場であるJA・AZMの屋外広場の一角をお借りして実施致しました。

実施にあたっては、チラシを作成し配付したほか、企業様への訪問や、県HPへの掲載、新聞広告等を通じて、御協力を呼びかけました。

また、食品については、温度管理等の関係もありましたので、未使用・未開封で、賞味期限が1ヶ月以上あり、常温で保存できるという3つの条件全てを満たす食品を「寄付できる食品」として明示しました。

また、あらかじめ県の衛生管理課の方に、食品衛生管理の知識を持つ職員の派遣依頼を行う等、食の安全性にも配慮して、イベントに臨みました。

当日は、ブースの周りに、フードバンクがどのような活動なのかを記載したパネルを展示しました。また、食品の提供先の御案内ということで、県内の子ども食堂マップのパネルを展示したほか、二見委員を始めとする「みやぎ子ども未来ネットワーク」の方にもお手伝いいただきまして、来場者、寄贈者の方に対して、子ども食堂に関する説明も行っていました。

申込受付では、どういった食品を寄贈いただけるのかイメージがわくように、寄贈食品の見本BOXを設置したほか、寄贈いただいた方には啓発グッズをプレゼントしましたので、食べきりマイ箸も展示しました。

当日は、9時半からイベントが開催されたのですが、朝から、主婦の方や家族連れの方等、様々な年代の方からたくさんの食品を寄贈いただくことができました。

こちらのイベント、当日限りだったのですが、缶詰やお漬物、飲料、乾麺、お米、お菓子類、調味料など、約170kgの食品を寄贈いただくことができました。

寄贈された方の中には、約25kgのもち米をお持ちくださった都城の男性もいらっしゃいました。

また、印字がずれた業務用のお漬物や少し期限が迫っているパック入りのお餅、時季が過ぎてしまったそうめん等、まさに「食品ロスになる前の食品」もたくさんありました。

また、今回はどうしても常温の食品に限ったので、なかなか御協力いただくことが難しかった企業様、団体様が多かったのですが、宮崎県学校給食会様から、側面がへこんだホールトマト缶やコーンの缶等を御寄贈いただきました。井戸川委員には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この他にも、J A宮崎経済連様、宮崎県農協果汁株式会社様、宮崎県漬物協同組合様など、49の団体、個人の方から食品を寄贈いただきました。

大変多くの方に、たくさんの食品を寄贈いただきましたので、贈呈式を11月26日に行わせていただきました。当日は、本協議会を代表しまして、詠田委員から「みやぎ子ども未来ネットワーク」のこども食堂部会長甲斐圭子様に目録が贈呈されました。

今回初めてのフードバンクイベントでしたが、実施にあたって、開催に係る周知や食品の寄贈等、御協力をいただいた委員の皆様には、事務局からも改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

議事2 「食べきり川柳」の審査について

(事務局説明・審査)

議事3 事例研究

○議長

先ほど事務局の方で御報告致しましたフードバンクについて、皆さんの方からいろいろな御意見をいただきたいと考えております。今回のイベントは、予想以上に盛況に終わった

と考えておりますが、初めての試みでいろいろな所で課題もあったと思っております。

食品ロスに係る取組の中でも一応の効果がある取組だったと評価しているのですが、これを今後とも永続的に続けていったり、いろいろな所で展開できるような取組にならないかなと考えておりますので、食品ロスの削減と子ども食堂等のマッチングの難しいところ等についても御意見いただきながら、課題を潰しながら永続的に長続きするような取組にしていきたいと考えております。

ぜひ委員の皆様から御意見をいただいて、より良い取組にしていきたいと考えております。今回のフードバンクイベントで御協力いただきました二見委員の方から、いろいろと課題等含めて御意見等いただけますでしょうか。

○みやざきママパパ happy 二見委員

この度は、「みやざき子ども未来ネットワーク」子ども食堂部会に寄贈いただきまして誠にありがとうございました。

参加させていただきまして、本当にたくさんの方がお越しくございました。

スパゲティの麺一つ、そうめんの束一つでも持って来てくださって、その方に「いただいた食材は宮崎県内の子ども食堂の方に寄付させていただきます」とお話をしたところ、「今後はどういう所でイベントをされるんですか?」、食べる物以外にも「洗剤や子どもの洋服とか子ども食堂はいらないかしら?」等、食材だけでなくリサイクル等に関する御意見等もあり、食だけではないいろいろな広がりが見えたイベントだったなと思っております。

また、今回、環境森林部から、「みやざき子ども未来ネットワーク」は福祉保健部と協働で立ち上げた団体でもあるものですから、福祉保健部を通じて、子ども食堂部会に食材が渡ったことで、県の様々な部が重層的に関わる横断的な取組になったので、すごく良いイベントだったかなと思いました。

できれば継続していけること、「定期的に受け入れ先がないか?」という御意見もあったので、フードバンクをどこかが受けていただいて、そういう場所があるといいのかなと思いました。

また、今回、「みやざき子ども未来ネットワーク」は県域でやっているネットワークなので、贈呈式にも都城で子ども食堂をされている方と延岡で子ども食堂をされている方が来られたんですね。ですので、できれば県北、県央、県南のようなかたちで、エリアごとに分かれてこういうイベントがあって、その地域の物はその地域で使われるようなシステムができていくと、配送のこと等も考えると、エリアごとにそういう取組がシステム化して継続的にされていくといいのかなと思いました。本当に今回は、すごくありがたい思いをたくさんいただきましたので、感謝しております。ありがとうございました。

○議長

ありがとうございます。本当に長続きしたら良いなと思う取組だと考えております。

実際、今回イベントを行うにあたりまして、いろいろな課題が見えてきたところもござい

ました。各子ども食堂に届ける際には、こういった食材が難しいとか、いろいろな意見もありました。出す側の事業所さんにとっても、いろいろハードルがあったようでございます。

実を言いますと、学校給食会さんの方からいただきました大きな缶詰等は、子ども食堂さんの方ではものすごく感謝されておまして、素晴らしい取組だったと思うのですが、実際、出す側の方で課題や問題等ありましたらぜひお願いします。

○公益財団法人 宮崎県学校給食会 井戸川委員

お尋ねになるんですが、業務用として扱っているものを提供したのですが、ちょっと大きすぎるので、子ども食堂さんに持って行く際に分けなくてはいけないということで大変なかなと思ったりもしたのですが、そのあたりはどうでしょうか。

例えば、缶詰等が3 kgぐらいですが、開けて冷蔵庫に入れると何日か保つのですが、かなりの量なので、どんな感じなのかなと思ひまして。

○みやざきママパパ happy 二見委員

今、宮崎県内に25箇所の子どもの食堂があります。1箇所に100人ぐらいいらっしゃいます。今回は、それぞれの子どもの食堂さんに、何がいらいますか？と聞いて、その物を差し上げているので mismatch は無かったです。今後どのような渡し方になるかにもよりますが、子ども達の人数もかなり多く、給食と同じぐらいの感じで活用できておりますので、その点は大丈夫です。

○事務局

今回、私達は、車で宮崎市の東大宮地区や門川町、延岡市、都城市、三股町等いろいろな所に配達に行かせていただきましたが、一番小さな所が三股町で10人ぐらいというところでした。

都城は、1箇所、宅配便のように食材を詰めて子どもさんがいらっしゃるご家庭にお届けするという活動をされている所で、そういった所は、あまり大きなものは逆に受け取りにくいというようなお話もありましたが、通常50人ぐらいの所が多かったので、そういった所については、大変良かったのかなと思ひます。特に桃の缶詰等は、大喜びしていただきました。

○議長

これまで取り組んでいないイベントでしたので、こちら側もどういったものを用意したら良いのか、受け手側もどのような配慮があるのか、手探りの状態でした。

ぜひ、今回見えてきた課題や良かったところをある程度まとめあげて、いろいろなかたちで、こういったイベントに取り組む時の参考になるようなものに繋げていけないかな、マニュアルや手引きのようなものが作れるようなかたちにならないかなと思ひますので、委員の皆様から御意見いただきながら、こういったところに配慮したいとか、出す側では、

こういったところに配慮してもらいたいとか、そういった御意見がありましたら、一言いただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○J A宮崎県女性組織協議会 川添委員

私達は農産物を作る現場にいる者ですが、今回寄贈された食品は、缶詰やインスタント食品等でしたので贈ることができませんでした。

農産物は生鮮食品なので、今回フードバンクに出せるかどうかいろいろ考えた中で、やっぱり出しても届けられる過程に腐敗というのが発生してきます。そこで食品ロスというのが出てくるので、そこがネックで私達はちょっと出さなかったんですが、今後、そういう生鮮食品、葉物なんかは2～3日でしなっとなってしまうんですが、加工すれば少し保存できたりもしますので、そのあたりも考えるべきかなと思うのですが、どうでしょうか。

○議長

ありがとうございます。

今回最初の取組でしたので、要するに腐らないものに限定して募集させていただいたところですよ。

前回の会議で、福岡のフードバンクさんがいらっしゃった時に、保冷の施設等を確保されているというお話もありましたので、どうかたちでフードバンクを進めるべきかということについても、大きな課題があるのかなと思っております。

ぜひともそういった取組に繋がるような、いろいろなかたちでの御協力をいただきながら進めていけたらと思っております。

まずは、今回のようなイベントに共催というかたちで実施して、手軽にできるフードバンク事業を定着させていきたいという考えもございますので、ぜひとも御協力の方、よろしくお願い致します。

飲食店さんの方は、今回のフードバンクでは、なかなか御協力が難しかったと思うのですが、実は食品ロス全体を考えますといろいろなかたちでロスが出てくる、事業系からもロスが出てくる中での課題の一つでもございますので、ぜひとも今回新しく委員になっていただきました田崎委員から、実際の飲食店の業界の方でのロス対策、取組等ありましたら、お話を伺いたいと思います。

○宮崎県飲食業生活衛生同業組合 田崎委員

30・10運動は、日向市でも市が運動を呼びかけるコースター、ポスター等を作って配布してくれており、各宴会場ではそのコースターを使用して、30・10運動が広がるような取組をしています。

また、日向の会議所等でも、会頭自ら30・10の後ろに120というのをつけて、30・10・120運動というのを推進してくれています。

30・10運動でしっかりと宴会中の食事を食べきった後は、繁華街に出てその後2時間

くらいは繁華街の盛り上げにも協力していこう！とジョークを交えて呼びかけてくれます。そういったことから、少しずつ30・10運動というのも浸透してきたのかなと思っています。

また、フードバンクについては、なかなか組合員一軒一軒のお店で、残って使わないようなものを集めて提供するというのは難しいと思うのですが、いろいろな納入業者様との付き合いがある中で、食品サンプルの残りや、賞味期限が間近になった物などを提供してくれることはよくあるので、そういったものをうまく利用できると良いのかなと思ったところです。

○議長

ありがとうございます。いろいろな所に、いろいろな物が、いろいろな形で存在するのだからということが今回初めて分かりました。

イベントの実施にあたっては、食品を子ども食堂に届けたいんだけど、どこが窓口になっているのか分からなかったと言われた方も実際におられまして、そういった意味でも、手軽にこういった活動に取り組める環境ができれば早く作りたいなど考えているところで、ぜひとも、事業者さんの方からお話がございましたらお願いします。

○宮崎県食品産業協議会（株式会社デイリーマーム） 和田委員

私達事業所側としまして、お願いと、こうあったらもっと協力ができるんじゃないかなというのがあるのですが、先ほどの常温というところで、私どもの業界で言いますと、冷蔵物や冷凍物というのは流通では非常に多い物量がありまして、そういう意味では、先ほどの常温以外の製品が、各事業所さん、各子ども食堂の施設の中に冷蔵・冷凍のハードが整備されれば、いろいろな意味で協力できる機会が増えると思います。

また、私、前々回話させてもらったように、一般の人達の食に対する意識をもっと変えていかないと、日本の大きな意味での食品ロス改善できないと思うんですね。

例えばどういうことかと言いますと、私どもいろいろなものの賞味期限を決める時に、どうしても安全策ということで短く短く設定してしまうんです。

工場等のハード面も、今からもう10年前20年前の工場と比べますと、遙かに製造する側の工場のレベルは国際基準をクリアしているような施設でいろいろな食品の加工をしている、製造をしているケースがあり、日本もどんどんレベルが上がってきています。

ところが、意識改革という部分で、賞味期限というかたちになると、非常に安全策で短く設定してしまう。だいたい8掛けとか7掛けと言いますが、だいたい5掛けくらいで設定する場合も非常に多いです。

ですから、賞味期限1ヶ月前には売り場から排除するというのはほとんどない話で、製造する側から見れば、賞味期限当日になっても食べられる物は山ほどあるんですね。それが、売り場から消えてしまう。消えてしまうイコールロスになっていく。これが悪循環で価格に反映される等、今度はロスとして扱わなければならない。

ですから、数年前も社会問題として、お店で使えない物は闇ルートで変な所に行って、それが売られていたと。逆の言い方をすれば、私達作っている側から見れば、十分食べられるんですね。十分食べられる物をお店では排除されるものですから、闇ルートとか、本当にあってはならないものですが、そういうふうなかたちで流れてしまう。また、そういうかたちに、一部の法律を守らない方が利用してしまう。こういうことも、正直今後起こり得るものではないかと思っています。

食品ロスについてどういうふうに取り組んだら良いのか、本当に貴重なこのような会議の中で、皆さんの意識改革というものも含めて啓蒙を図っていけば、日本の食品ロス、また食品が活かされないで捨てられる、闇に葬られるというふうなことを防げることはいっぱいあると思います。

ですから、啓蒙運動の実例の中で、子ども食堂は非常に良い取組だと思います。

もう一つ、皆さんを教育する、ある意味では大人の教育というものが、私はものすごく問題だと思っていますので、大人の意識改革も、この食品ロスを無くす運動の一環に加えて行っていければと思います。

アメリカが、何年か前に食品ロスを無くすということで取り組んだその答えは食育だった、という結論を付けていますが、実は、日本はアメリカよりもロスを出す国になってしまっています。アメリカが食品ロスを削減できた訳ですから、日本人も意識改革することによって、アメリカよりももっとスピーディに食品ロスを無くすことができるのではないかと思っています。

ちょっと脱線話ですが、私が20年ほど前にPTA会長をしている時に、どうあったらこの学校の意識を直せるかというのを考えた時に、子どもさんを直すよりも大人を直した方が良いということで、大人の会合をずいぶん開いて、今まで学校で慣例的に行われていたものをずいぶん変えたんです。

一つの例では、運動会の時に、親御さんが校庭の石拾いをしたり、学校のプールを洗うというのが幼稚園や小学校の活動にあったんですが、石を拾うぐらいなら幼稚園の生徒でも拾えるんですね。プールを洗うぐらい、洗剤を使わなくても十分綺麗に落ちるんですね。それをなぜ子どもさんにやらせないのか。なぜ大人が前に出て、石を拾ったりプールを洗ったりするのか。子どもができることは子どもにやらせるべきじゃないか、と。なぜ大人が子どもの学習の機会を奪うのか、と変えた事があるんですね。そうしたら、その学校はずいぶん子どもさんの自立、自活に対して意識を持って、その後継続的にやっているらしいのですが、この食も一緒だと思うのです。

あまりにも子どもが可愛い可愛いですが、実はある意味では、自覚、自立というものを阻害している面も、食育の中に、また家庭のしつけの中にあるんじゃないかなと。

こういう部分を社会的に問いかけをすることによって、もう一度考えることによって、意識改革をしていくのも一つ運動の一環としてあったら変わっていくんじゃないだろうかというふうに思います。

○議長

ありがとうございます。

意識の方にも目を向けていかなければならないと考えております。

教育もありますし、学術的な分野からも今回の取組に対していろいろな御助言等いただければと思います。

○南九州大学 岡崎委員

今回のフードバンクの取組というのは、非常に重要なことだと認識しておりますし、先ほどから言われておりますとおり、いかに継続をできるかというのは、食品ロスの問題ではなくて福祉の問題があって、本末転倒にならないかたちが大事かなと思います。

また、先ほど御意見いただいているように、ハード面、ソフト面という意味の整備というのを、企画としてどう立ち上げられるのかが一つあると思います。

また、情報をいかに共有できるのかというのを、ぜひ県庁の方で率先してやっていただきたいなと思います。170kg集まりましたと、これが十分なんですか、不十分なんですか、って分からないですね。家庭の一人一人が善意で持って行った物が、足りているの、足りていないの、というのは気になると思いますし、ちょっとした疑問を投げかけて継続できるようなかたちに持って行くのも一つありますし、それが啓発に繋がるということも考え方の一つではないかと思います。

先ほど御意見が出ましたように、お家の中でもどうしていくの、という議論も協議会を通じて呼びかけていく必要があると思いました。

○議長

ありがとうございました。

ぜひともそのような取組ができるように繋げていきたいと思います。

なお、今回の取組について、いろいろな場所で御紹介をしていただいた詠田委員の方からもお願いします。

○NPO法人 みやざきエコの会 詠田委員

先ほど農業をされている方のお話をお聞きしましたが、日曜日とか曜日を決めてしている等、毎日子ども食堂で食事を提供しているところばかりではないですね。実は、うちの隣にも子ども食堂があるんですが、そこは2～3人ぐらいしか集まっていないです。

配るのではなくて、もし良ければルートを作って取りに行く。そういうかたちにしないと、結局集められてそれをまた配布するとなると、時間的なロスがありますよね。

子ども食堂さんは、そういうルートができれば、そこに取りに行くということではできるのでしょうか。

○みやぎきママパパ happy 二見委員

今、宮崎市が子ども食堂コーディネーター事業というのを始めまして、当法人が、みやぎ子ども文化センターさんと協働で受けさせていただいているんですが、私もコーディネーターとして動いています。

実際に、とあるキュウリ農家さんからキュウリを差し上げたいということで、今回は宮崎市内の子ども食堂さんに配布したんですが、この地域の子どもの食堂にこの地域でできた物を渡すというルートができてしまえば、先ほど言われたように2日しか保たないんだけれどもという物とか、例えば冷蔵品とか冷凍品でもできると思います。

今はやはりその仕組みがないのでできないと、ただ実際今動き出しているんで、おいおいそこを考えていきたいと思っています。

○NPO法人 みやぎエコの会 詠田委員

そういうふうにしていかないと、配り手等、どこかに負担がかかってしまいます。ですから、子ども食堂をされている方が、いろいろなルートを作っていただけるといいのではないかなと思います。

また、先ほど、食材だけでなく衣類や洗剤等もあるんだけど、という話をされていましたが、私は、これはごみ減量というところにも繋がっていくのではないかなと思うんですね。ですから、そういったところを何か自分達で繋げて行ければ良いのかなと思いました。

実は、12月12日に、谷口委員が実行委員長で、九州地域婦人大会というのが観光ホテルでありました。第70回ということで、宮崎県が一番先に始めて、ちょうど古希ということで回ってきて大会があったのですが、分科会があるんです。

その中の環境の暮らしの問題というので、食品ロスの削減をテーマに参加者の方々といろいろ話し合いをしました。

こちらから一方的に言うだけではなくて、参加された方がどのように食品ロスについて意識を持っていられるのかということで、グループ討議をしました。180名の参加者だったのですが、女性って本当に素晴らしいなと思ったのは、「では今からグループ討議をします」と言ったら、それぞれここからここまでが1グループですよなんて言わなくても、自分達で周りの人とグループを作ってそこで討議をしていただいて、それぞれ発表していただいたんです。その中でもやはりいろいろな御意見がございました。

ただ、私ちょっと残念だったなと思ったのは、残飯を処理する、いわゆるコンポストにする事業の報告は割と多かったです。

でも、食品ロスというのは残飯になる前の段階ですね。そのあたりをしっかりと認識してくださいねということで、ちょっとアドバイスをさせていただきました。

本当にお腹が空いている時には買い物に行かないとか、なるべく手前の方から品物を取るとか。もう一つ、先ほど和田委員がおっしゃったように、日本は3分の1ルールというのがありますよね。このあたりを少し改善されないと食品ロスというのは解消されないんじゃないかな、そのあたりを少し食料業界とかから国にどんどん進言していただけると良い

んじゃないかなと思っております。

○宮崎県地域婦人連絡協議会 谷口委員

今、詠田委員がおっしゃいましたが、昨日、一昨日と2日間に渡って分科会をしまして、食品ロスが一番大きなテーマだったので、詠田委員にアドバイザーになっていただきました。

私達家庭の主婦、家庭の者は、家庭から食べ物のロスを作らない出さないというのが一つ根底にあります。食べきるというのもそうですし、家族に、子ども達にもそれを伝えていくというのが、私達家庭を守る者の役目じゃないか、そこが一番根底にあるんです。

子ども食堂とかいろいろな運動が今の時代出てきておりますが、私達も子ども食堂についてはずいぶん考えましたけれど、私達はあくまでも家庭の事を一番考えよう、家庭からロスを出さない、ということにテーマを置いて致しました。

これからの時代は、貧しい子どもも増えますし、料理ができない家庭もあると思いますので、子ども食堂というのが発展していくかもしれませんが、ちょっと婦人会の活動とは違うよねという意見も多かったんです。ですから、婦人会でできることとして、家庭からロスを出さないということに、もうしばらく頑張っていこうと思っています。

○議長

ありがとうございました。

今回のフードバンク事業のようなイベントで行う取組が少しでも長続きするように、そしてやりやすいかたちで定着するように、皆さんの御意見を、アイデアをいただきながらまとめあげて続けていきたいなと思います。

事例研究ということで取り組ませていただいたフードバンクですが、今後皆さんからいただいた御意見をまとめまして、次回の会合までには、一定の取り組み方や方針についてお諮りできるようにしたいと思いますので、このあたりで締めたいと思います。

御協力ありがとうございました。